

JCBL と政治を動かした 20 年

参議院議員

藤田幸久



1996年に衆議院議員に初当選した私が取り組んだ最初の仕事が対人地雷全面禁止条約でした。難民を助ける会の「地雷ではなく花をください」という絵本1冊の販売でカンボジアの地雷原10㎡の除去ができる、という呼びかけに4千冊が売れ、国会議員のベストセラーになりました。橋本総理はG7サミットで地雷廃絶を目指すと発言していましたが、自衛隊が対人地雷100万個を所有するために政府は反対の立場でした。

1997年6月に超党派の「対人地雷全面禁止推進

議員連盟」を結成しましたが、与党議員は不参加でした。しかし、陸上自衛隊出身の中谷元衆議院議員がカンボジアでの市民の被害の残酷さを見た経験から加入を決断し、自民党議員の賛同が広がりました。最終的に中曽根、竹下、海部、宮沢、細川、羽田、村山議員という元総理全員を含む388人が加入して下さいました。その署名を橋本龍太郎総理に提出すると、総理は自衛隊に対し「対人地雷は本当に必要なのか、代替手段はないのか」という打診を行ったことが後に分かりました。

その7月にJCBLが設立され、議連と一緒に政府や国会議員に対する陳情活動を行うようになりました。8月にアメリカ政府がオタワプロセスへの参加を表明した直後にはJCBLが56団体による要望書を橋本総理に提出しました。また、カナダ、ノル

第5章 JCBL20周年によせて

ウェー、フィリピンなどの在京大使数名がベルギー大使公邸で会見し、日本政府に対してオタワ条約加入への要望を行いました。

9月に就任した小渕恵三外務大臣による「カンボジアでの地雷除去に日本は協力している。一方で条約を認めないというのは筋がとおらない」との発言と、対人地雷被害者支援に取り組んでいた英国のダイアナ妃の死去もオタワ条約への流れを加速しました。10月にはICBLとジョディ・ウィリアムズさんのノーベル平和賞受賞が決定しました。

11月にはICBLを代表して車いすのカンボジアの地雷被害者のチャンナレットさんと3万5千人分の署名を小渕外務大臣に手渡しました。オタワ会議

の前日にオタワ条約調印が閣議決定され、12月4日の小渕外相による条約署名に間にあうことができました。

その後もJCBLはクラスター爆弾廃止など様々な人道支援の活動を担って来られました。去年は紛争で16万人が死亡したといわれますが、紛争を無くすることが最も重要だと思います。そして、犠牲者を心から支援するのがNGOの皆さんです。JCBLの皆さんと政治を動かして紛争を止めるために、私もNGO出身の国会議員としてお役に立っていきたいと思います。

JCBLの皆さんのますますのご活躍をお祈りいたします。